

平成25年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第61回総会（平成25年6月5日～6日）
会場：パシフィコ横浜
会長：戸塚恭一（東京女子医科大学感染対策部感染症科）
2. 第60回東日本支部総会（平成25年10月30日～11月1日）
会場：東京ドームホテル
会長：草地信也（東邦大学医療センター大橋病院外科）
3. 第61回西日本支部総会（平成25年11月6日～8日）
会場：大阪国際会議場
会長：後藤直正（京都薬科大学微生物・感染制御学）
4. 本年関連国際学会として
第28回国際化学療法学会（平成25年6月5日～8日・パシフィコ横浜）

B) 会務

1. 年度末正会員数 6,961名
年度末賛助会員数 30団体、団体会員数 186団体
2. 平成25年度評議員会、同定期総会は平成25年6月5日にパシフィコ横浜で開催された。
3. 新評議員（平成25年6月～平成26年5月）
東日本支部5名（現在228名）
石和田稔彦（千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部）
川崎 聡（信楽園病院呼吸器内科・感染症内科）
西 圭史（杏林大学医学部附属病院薬剤部）
松元 一明（慶應義塾大学薬学部実務薬学講座）
渡邊 学（東邦大学医療センター大橋病院外科）
西日本支部6名（現在199名）
幸福 知己（一般財団法人住友病院臨床検査技術科）
浜田 幸宏（愛知医科大学病院感染症科）
林 三千雄（一般財団法人住友病院呼吸器内科・感染制御部）
松原 啓太（県立広島病院小児科）
山内 高弘（福井大学医学部第一内科）
和田耕一郎（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学）

4. 理事会 5 回開催

平成 25 年 4 月、6 月、9 月、12 月、平成 26 年 2 月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌 (委員長 清田 浩)

- ・編集委員会 6 回開催

- ・編集状況

平成 25 年 第 61 巻 3 号～6 号

一般誌 4 冊 (掲載論文数 19 編)

平成 26 年 第 62 巻 1 号～2 号

一般誌 2 冊 (掲載論文数 9 編)

その他編集中 2 冊

- ・ Equally contributing authors について規定を設けた。

2) Journal of Infection and Chemotherapy (委員長 松本哲哉)

- ・編集委員会 6 回開催

- ・編集状況

平成 25 年

Vol. 19 No. 2～6 (掲載論文数 171 編)

平成 26 年

Vol. 20 No. 1～3 電子版 (掲載論文数 49 編)

- ・ シュプリンガー・ジャパンとの出版契約が平成 25 年 12 月末で満了となった為、検討の結果、平成 26 年 1 月からエルゼビア・ジャパンに出版を移行した。また、それに伴い投稿規定を変更した。

- ・ 平成 26 年 1 月から電子版の発行が月刊となり、冊子版は 2 号合併号として偶数月に発行した。

- ・ JIC Award 受賞

南條友央太 (順天堂大学附属浦安病院 呼吸器内科)

「Effects of slow-releasing colistin microspheres on endotoxin-induced sepsis」 (Vol.19 No.4 p.683-690)

3) 用語委員会 (委員長 清田 浩)

抗菌化学療法オンライン用語集の用語の整理を行った。

2. 学術委員会 (委員長 草地信也)

- ・ 認定学術集会 申請 28 件 認定 28 件 (平成 25 年度 申請 27 件、認定 27 件)

- ・ 学術奨励賞受賞者

第 61 回総会

峰松明日香（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科））
「Vacuolar H⁺-ATPase の阻害が *Candida glabrata* の抗真菌薬耐性と病原性に与える影響」

伊藤明広（倉敷中央病院 呼吸器内科）

「市中肺炎におけるβラクタム系抗菌薬とマクロライド系抗菌薬併用の有無による臨床的効果の差異の検討」

日本化学療法学会雑誌

桧山佳樹（札幌医科大学医学部泌尿器科学講座）

「尿路結石による尿路閉塞を伴う急性腎盂腎炎症例の検討」

Journal of Infection and Chemotherapy

秦 亮（久留米大学医学部 感染医学講座 臨床感染医学部門）

「Impaired capsular polysaccharide is relevant to enhanced biofilm formation and lower virulence in *Streptococcus pneumoniae*」

3. 学会賞選考委員会（委員長 公文裕巳）

志賀潔・秦佐八郎記念賞の候補者について検討し選考を行った。

受賞者：河野 茂（長崎大学医学部第二内科）

研究テーマ：「肺炎の診断と治療に関する研究と標準化」

4. 国際渉外委員会（委員長 松本哲朗）

平成25年6月5日から8日にパシフィコ横浜にて、第28回国際化学療法学会が開催され、第61回日本化学療法学会総会/第87回日本感染症学会学術講演会との同時期開催をした。

5. 第28回国際化学療法学会準備委員会（委員長 河野 茂）

学会の準備状況の把握を行い、国際化学療法学会のコアメンバーと情報を共有した。

6. ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

1) これまで本学会で検討されてきたブレイクポイントをさらに臨床的に使用しやすいものを目指すことを目指し、CLSIおよびEUCASTのブレイクポイントを参考としながら改訂を行った。

2) いくつかの薬剤に関して、臨床治験成績とPK-PD因子を考慮したブレイクポイント改訂の検討を行った。

7. PK-PD 検討委員会（委員長 岩田 敏）

平成24年2月に厚生労働省へ提出した「PK-PDガイダンス」最終案の回答がなく、特に委員会として新規の活動は行わなかった。

8. 未承認薬検討委員会（委員長 三鴨廣繁）

- ・ コリスチン検討部会

コリスチン検討部会の委員が、学会、地方会などで「コリスチン使用の手引き」の普及に努めた。産官学で個人輸入されているコリスチンの使用状況の把握と

情報収集を行った。

- ・高用量ピペラシリン検討部会
産学共同で実施した高用量ピペラシリンの臨床試験の遂行に協力し、臨床試験のエントリーが終了した。
- ・高用量シプロフロキサシン検討部会
産学共同で実施している肺炎に対する高用量シプロフロキサシンの臨床試験の遂行に協力した。
- ・注射用メトロニダゾール検討部会
産学共同で実施している臨床試験が終了しPMDAによる審査中である。
- ・高用量クラリスロマイシン検討部会
高用量クラリスロマイシンの必要性について調査を継続している。
- ・バンコマイシン経口薬検討部会
産学共同でバンコマイシン経口薬の必要性について検討を進めた。

9. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 三鴨廣繁）

- 1) 指導者制度講習会開催（年3回：48回、49回、50回）
 - 第61回総会：平成25年6月6日（横浜）
 - 第60回東日本支部総会：平成25年11月1日（東京）
 - 第61回西日本支部総会：平成25年11月7日（大阪）
- 2) 抗菌薬臨床試験指導医・指導者および認定医、認定者の新規申請および認定作業を行った。

10. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 三笠桂一）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
 - 第26回 平成25年6月4日 パシフィコ横浜
 - 第27回 平成25年8月31日 東京国際フォーラム
 - 第28回 平成25年10月30日 東京ドームホテル
 - 第29回 平成25年11月6日 大阪国際会議場
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー
 - 東京：平成25年10月27日 日内会館
 - 奈良：平成25年10月13日 奈良県文化会館
 - 神戸：平成25年12月1日 神戸大学医学部神緑会館
 - 札幌：平成26年1月19日 札幌医科大学記念ホール
 - 福岡：平成26年3月9日 九州大学百年記念講堂
- ・委員会を数回開催した。
- ・抗菌薬適正使用テキスト改訂版を8月に発行した。
- ・第27回1日コースを映像収録し、教育資料としてDVDを作成した。
- ・抗菌薬化学療法指導医試験を平成25年12月8日に実施した。
- ・認定者 指導医：新規53名、更新78名
認定医：新規181名、移行8名、更新230名
認定歯科医師：新規24名、更新32名

11. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 竹末芳生）

- ・認定薬剤師講習会の開催

第9回 平成25年5月24日 パレアホール（熊本）

第10回 平成25年9月20日 仙台国際センター

- ・抗菌化学療法認定薬剤師試験を平成26年1月26日に実施した。認定者124名

12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 門田淳一）

1. 第1回（2009年）サーベイランス

1) 単純性膀胱炎（1回目・321株）：成績をICC（2013年6月）で発表した。論文をJournal of Infection and Chemotherapy（JIC）に投稿し、19(3)に掲載された。

2) 尿道炎（1回目）

- ・淋菌（83株）：成績をSTI&AIDS（2013年7月）で発表した。

論文をJICに投稿し、19(4)に掲載された。

- ・クラミジア（19株）：成績をSTI&AIDS（2013年7月）で発表した。論文は2回目となる2012年に収集した菌株と合わせて執筆し投稿する予定である。

2. 第2回（2010年）サーベイランス

呼吸器感染症（5回目・954株）：論文を執筆し、JICへの投稿準備をしている。

3. 第3回（2011年）サーベイランス

1) 耳鼻咽喉科領域（1回目・628株）：論文を執筆中である。

2) 複雑性尿路感染症（2回目・997株）：成績を当学会および日本感染症学会（2013年6月）、第28回ICC（2013年6月）、日本臨床微生物学会（2014年2月）で発表した。また論文を執筆中である。

4. 第4回（2012年）サーベイランス

1) 呼吸器感染症（6回目・1,236株）：解析を終了し報告書を作成中である。

2) 尿道炎（2回目）

- ・淋菌（104株）：成績を日本臨床微生物学会（2014年2月）で発表した。また、論文を執筆中である。

- ・クラミジア：菌株収集を終了し、感受性を測定している。

5. 第5回（2013年）サーベイランス

1) 皮膚科領域（1回目）：約800株を収集し、感受性を測定している。

2) 歯科・口腔外科領域（1回目）：約700株を収集し、感受性を測定している。

6. 第6回（2014年）

1) 呼吸器感染症（7回目）：菌株を収集している。（目標：1,000株、収集期間：2014年1月～9月末）

2) 手術部位感染（SSI）（2回目）：菌株を収集している。（目標：1,000株、収集期間：2014年1月～9月末）

13. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）

平成24年6月に厚生労働省へ提出した「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」最終案の回答がなく、特に委員会として新規の活動は行わなかった。

14. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 渡辺 彰）

- 1) 第61回総会（2013年6月6日）にて、委員会報告を行った。
- 2) 第61回総会（2013年6月6日）にて、シンポジウムとして「Workshop for Legionella and Other Atypical Respiratory Pathogens 2013」を開催し、アジア地域におけるレジオネラ感染症やマイコプラズマ感染症の疫学・診断および抗菌薬療法に関し、情報交換を行った。
- 3) これまでに収集されたレジオネラ症全例のデータを入力し、最終解析を行った。
- 4) レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査を入力し、最終解析を行った。

15. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン（呼吸器感染症）」を当学会および日本感染症学会の和文誌に掲載した。

16. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

- ・委員会報告を第61回日本化学療法学会総会のシンポジウム17「抗MRSA薬治療ガイドライン：賢い使い方を再考する」と兼ねて行った。
- ・6月に「MRSA感染症の治療ガイドライン」の冊子およびポケット版を発行し、第61巻6号に追補として「抗MRSA薬の術後感染予防，経験的治療」を公表した。

17. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

バンコマイシン、ポリコナゾールおよびアルベカシンをJICに投稿し、バンコマイシン、ポリコナゾールについては19(3)、アルベカシンについては20(1)に掲載された。

18. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会（委員長 三嶋廣繁）

「チゲサイクリン適正使用のための手引き」最終案が確定後、ホームページでパブリックコメントを募集した。

19. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 河野 茂）

平成25年12月21日に東京国際フォーラムで、「耐性菌シンポジウム2013 -1年を総括して来年に備える-」を開催した。

20. 創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

委員会の中で今後の方向性が議論し、関連学会と連携して提言を発表することとなった。また日本版GAIN法を考えるワーキング、および創薬促進コンソーシアムワーキングを立ち上げ活動を始めた。

21. 将来計画検討委員会（委員長 岩田 敏）

特定費用準備資金を財源とした新規の公益目的事業について検討を行った。

22. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

利益相反指針および自己申告の基準の改訂、細則を施行した。

23. 特定費用準備資金検討ワーキング（委員長 清田 浩）

特定費用準備資金の新規事業として 1) 特定感染症全国サーベイランスに関する事業、および 2) 薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業を理事会に提案し、「*Clostridium difficile* 感染症“1日”多施設共同研究」および「忍び寄る薬剤耐性菌の恐怖」と題して市民公開講座を企画した。

24. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

平成 25 年 12 月 認定者 49 名

(2) 平成 25 年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

平成26年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第62回総会（平成26年6月18日～20日）
会場：ヒルトン福岡シーホーク
会長：門田淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）
2. 第61回東日本支部総会（平成26年10月29日～10月31日）
会場：東京ドームホテル
会長：清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）
3. 第62回西日本支部総会（平成26年10月23日～25日）
会場：岡山コンベンションセンター
会長：尾内 一信（川崎医科大学小児科学）
4. 本年関連国際学会として
第15回アジア太平洋臨床微生物感染症学会議
（平成26年11月26日～29日・クアラルンプール）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定
・編集委員会を隔月開催する
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・電子版を12号、冊子版を6冊発刊予定
・編集委員会を隔月開催とする
・JIC賞の選考を行う

3) 用語委員会

抗菌化学療法オンライン用語集改訂を掲載し、検索機能をつける予定ある。また、略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

2. 学術委員会

認定学術集会の認定および学術奨励賞を選考する。
海外留学補助制度の選考を行う。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

平成26年11月25日～28日に第15回アジア・パシフィック臨床微生物・感染症学会がマレーシア、クアラルンプールで開催される予定である。

5. ブレイクポイント臨床応用検討委員会

- 1) 感染症治療ガイドに化学療法学会、CLSI、EUCASTのブレイクポイントを掲載する。
- 2) 当学会が発表しているブレイクポイントについて、PK-PD情報などをもとに改訂を続ける。

6. PK-PD 検討委員会

平成24年2月に厚生労働省へ提出した「PK-PDガイダンス」最終案の回答を待つて案の見直しを行い、公表する予定である。

7. 未承認薬検討委員会

- 1) コリスチン検討部会
既発表の「コリスチン使用の手引き」のさらなる普及を図る。
- 2) 高用量ピペラシリン検討部会
高用量ピペラシリンに関して実施したアンケート結果を論文化する。
- 3) 高用量シプロフロキサシン検討部会
高用量シプロフロキサシンの承認に向けて産官学合同で継続的に取り組む。
現在進行中の高用量シプロフロキサシンの臨床試験に関して委員会から適切な助言を与える。
- 4) 注射用メトロニダゾール検討部会
注射用メトロニダゾールの承認に向けて産官学合同で取り組む。
注射用メトロニダゾールの位置付けを明らかにするべく、嫌気性菌感染症治療のガイドライン委員会と共同でガイドライン作成を考慮している。
- 5) 高用量クラリスロマイシン検討部会
高用量クラリスロマイシンの臨床的意義を明らかにし、承認に向けて産官学合同で取り組む。
- 6) バンコマイシン経口薬検討部会
バンコマイシン経口薬に関して当学会としての見解を示すことが出来るように議論を進める。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：51回、52回、53回）
第62回総会：平成26年6月18日（福岡）
第61回東日本支部総会：平成26年10月29日～10月31日（東京）
第62回西日本支部総会：平成26年10月23日～10月25日（岡山）
- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける

- 3) 8月末までに新規申請者の指導医・指導者の試験を実施する

9. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
 - 第30回 平成26年6月18日 ヒルトン福岡シーホーク
 - 第31回 平成26年8月30日 東京国際フォーラム
 - 第32回 平成26年10月23日 岡山コンベンションセンター
 - 第33回 平成26年10月29日 東京ドームホテル
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナーを東京、札幌、神戸、奈良、福岡で開催予定
- ・委員会を数回開催予定
- ・1日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・10月末に指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書の締め切り
- ・指導医認定試験実施および認定のための作業を行う
- ・平成27年1月1日付けで認定

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・第11回 平成26年5月30日 ソラシティーカンファレンスセンター（東京）
 - ・第12回 平成26年9月26日 名古屋国際会議場
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、平成27年3月1日付けで認定する。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

- 1) 第1回（2009年）サーベイランス
尿道炎（クラミジア）（1回目・19株）：2012年に収集した菌株と合わせた成績で論文を投稿する。
- 2) 第3回（2011年）サーベイランス
 - ・耳鼻咽喉科領域（1回目・628株）：成績を海外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。
 - ・複雑性尿路感染症（2回目・997株）：論文をJICに投稿する。
- 3) 第4回（2012年）サーベイランス
 - ・呼吸器感染症（6回目・1236株）：成績を国内外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。
 - ・尿道炎（2回目）
 - ・淋菌（103株）：成績を国内外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。
 - ・クラミジア：感受性の測定を終了する。成績を国内外の学会で発表し、論文を投稿する。
- 4) 第5回（2013年）サーベイランス
 - ・皮膚科領域：成績を国内外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。
 - ・歯科口腔外科領域：成績を国内外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。

- 5) 第6回(2014年)サーベイランス
 - ・呼吸器感染症:菌株収集を9月末で終了し、感受性を測定する。
 - ・手術部位感染(SSI):菌株収集を9月末で終了し、感受性を測定する。
- 6) 第7回(2015年)
 - 耳鼻科咽喉科領域(2回目)および単純性膀胱炎(2回目)・複雑性尿路感染症(3回目)を対象に全国規模のサーベイランスを実施する。
- 7) サーベイランス事業10周年報告会
 - 第62回日本化学療法学会総会・第88回日本感染症学会学術講演会合同学会(2014年6月)で本事業設立10周年の報告会を開催する。

12. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

平成24年6月に厚生労働省へ提出した「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」最終案の回答を待って公表する予定である。

13. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会(委員長 三嶋廣繁)

未承認薬検討委員会注射用メトロニダゾール検討部会と共同で、注射用メトロニダゾールの位置付けについて検討を進める。

14. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- 1) 収集されたレジオネラ菌(約100株)に対し、各種薬剤のMIC、MIECを東邦大学にて測定し、東日本支部総会で報告する予定である。
- 2) これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終成績を日本化学療法学会雑誌に投稿する予定である。
- 3) レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査を日本化学療法学会雑誌(委員会報告)に投稿する予定である。
- 4) 2014年6月21日、中国(貴陽)にて、第2回レジオネラワークショップを開催し、アジア地域におけるレジオネラ症の疫学・診断および抗菌薬療法に関し、情報交換する予定である。

15. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

JAID/JSC 感染症治療ガイド 2014 を発行し、呼吸器感染症を除く JAID/JSC 感染症治療ガイドライン作成に向けて各領域のワーキングで検討する予定である。また、呼吸器感染症については日本化学療法学会雑誌に掲載した内容を別途、冊子としても作成し、Journal of Infection and Chemotherapy に英語版を掲載してガイドライン普及に努める予定である。

16. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

改訂第2版をホームページに公表予定である。冊子体は製薬企業の要望があれば作成する予定である。

17. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

4 薬剤(VRCZ,VCM,ABK,TEIC)のうち、未投稿の TEIC を JIC に投稿する予定である。

18. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会

「チゲサイクリン適正使用のための手引き」最終版を第62巻3号（5月発行）の日本化学療法学会雑誌に掲載した。

19. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ

平成26年12月20日に東京国際フォーラムにおいて「耐性菌シンポジウム 2014－1年を総括して来年に備える－」を開催する予定である。

20. 創薬促進検討委員会

6学会提言にもとづき、それぞれのワーキングで活動する予定である。また、市民公開講座などを開催し、創薬促進に関連する問題を市民の皆様にご理解いただく活動を行う予定である。

21. 将来計画検討委員会

創薬促進検討委員会等とも連携しつつ、公益目的事業などを含めて、公益社団法人としての今後の学会活動のあり方について検討していく予定である。

22. 特定費用準備資金検討ワーキング

特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業として *Clostridium difficile* の 1 day study を、薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業として 10月31日に東京ドームホテルにて市民公開講座を開催し、事後抄録を新聞広告として掲載する予定である。

23. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

24. 利益相反委員会

日本医学会の「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン改訂版」を参考にし、COI 指針および細則の変更を検討する予定である。

25. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成26年10月31日